飲食店、深夜も客足じわり

会計件数 午後10時以降が4割

6月末 客数は6割どまり

居酒屋やレストランの午後10時以降の利用がじわり増えている。飲食店向けの顧客台帳サービス「トレタ」を導入する店舗のPOS（販売時点情報管理）データによると、6月末には来店客の会計の4割超が午後10時以降となり、4月末の13・6%から大幅に回復。ただ来店客数は平時の6割にとどまり、飲食店は引き続き厳しい環境下での経営を強いられている。

データ分析事業を手掛けるフューチャー・バリューズ・インテリジェンス（東京・文京）の協力を得て、全国約1千店の午後7時～午前3時台の会計件数を調べた。大手の外食チェーンは緊急事態宣言の発令後、軒並み営業時間の短縮を公表している。トレタは小規模事業主からも幅広く利用されているため、経営資源の限られた個人店などの営業状況も反映しているのが特徴だ。

新型コロナウイルスの感染が拡大する前の1月下旬からの動向を調べると、3月下旬までは午後10時以降の会計は全体の4割強を占めていた。

変化がみえてくるのは東京都で不要不急な外出の自粛要請があった3月末だ。3月30日～4月5日の週には午後10時以降の会計比率が38・4%と4割を下回り、その後も週を追うごとに減少。大型連休にさしかかった4月27日～5月3日には調査期間で最も少ない13・6%になった。

反対に目立つようになったのが、早い時間帯の会計だ。東京都や大阪府などは4月、当面は営業時間を午後8時までに限定するよう飲食店に要請している。この時間帯の会計件数を調べると、3月末まではおおむね10%台の前半だったが、4月に入ると急上昇した。4月20～26日の週には42・9%と、調査期間中で最大となった。あくまで推計ではあるが、飲食店の半分近くは自治体による時短営業の要請に従ったことになる。

5月に入ると、消費者の足は少しずつ深夜の飲食店に向かい始めた。午後10時以降の会計は緊急事態宣言が全面解除された5月25～31日の週は30・3%、6月15～21日には39・9%となった。6月22～28日の週には「4割強」となり、感染拡大前の水準に近づいた。

もっとも来店客数は依然として少ない。「1月20～26日の週＝100」として指数化すると、6月22～28日の週でも61・5にとどまる。調査期間中で最少だった4月13～19日の週（9・5）よりは回復したが、平時の水準にはほど遠い。

なかでも苦戦が目立つのが大人数での来店だ。6月22～28日の週をみると10人以上での来店は20・1どまり。45・4となった5～9人での来店や、73・0となった1～4人での来店に見劣りする。外食を再開する消費者も、現時点では感染リスクを嫌って少人数での会食にとどめている。企業が職場での歓送迎会を控えている可能性もある。

「金の蔵」などを運営する三光マーケティングフーズは週末を中心に首都圏の一部店舗で午前0時以降の営業を再開した。夜間の客足は徐々に戻りつつあるが「繁華街は特に戻りが遅い」（同社担当者）という。ワタミもFC店を中心に約50店舗で午前0時以降の営業を再開した。営業時間拡大の動きは広がりつつあるが、客足をみながら個別店舗の判断に任せるケースもある。別のある飲食店関係者は「夜間の人出は戻りつつあるが、それでも以前には届かない」と頭をかかえる。

営業を再開したお店のなかには、席数を減らすなど感染を防ぐために以前とは異なる営業手法を採用した場合も少なくない。飲食ビジネスがコロナ以前に元に戻ることはあるのか。あるとしても、それがいつなのか。現時点では見通しにくいのが現実だ。（藤村広平）



